

腹部超音波検査と脂肪肝



函館中央病院

検査科 主任(臨床検査技師)

林 由記 さん

腹部超音波検査(腹部エコー検査)とは、超音波を出す機器をお腹に当てて臓器の状態をみる検査です。目的や症状などでみる臓器は異なりますが、**肝臓**、**胆嚢**、**膵臓**、**脾臓**、**腎臓**、**消化管**などに異常がないかを見えます。

肝臓の異常で頻度が高いものに**脂肪肝**がありますが、エコーで**脂肪肝**を見ると正常の肝臓と比べて**脂肪肝**は超音波の反射が強いため**肝臓**が白く映ります。脂肪肝、肝炎から線維

化が進み**肝硬変**になると**肝臓**の表面がでこぼこに映ります。脂肪肝には**アルコール**をさほど飲まなくても**脂肪肝**や**肝炎**になってしまう**非アルコール性脂肪性肝疾患**があります。近年、**非アルコール性脂肪性肝疾患**が増加しており**問題視**されています。

過剰飲酒がなく代謝異常があるものを**代謝異常関連脂肪性肝疾患**(**MASLD**)、**MASLD**に該当して**肝炎**になった状態を**代謝異常関**

連**脂肪性肝炎**(**MASH**)といわれています。肥満、糖尿病、脂質異常症などの代謝異常があると**脂肪肝**になりやすく、負担が掛かっていると**肝臓**の細胞が壊れて炎症を起します(肝炎)。壊れた**肝細胞**の再生が間に合わなくなると**線維化**がおきます。**MASLD**や**MASH**は**線維化**が進行するといわれていて、**線維化**の進み具合に個人差はありますが、進行すると**肝硬変**、さらに**肝がん**になる可能性が高まります。そして、**心筋梗塞**や**脳卒中**などの**動脈硬化性心血管疾患**や**肝臓**以外の**がん**など全身のさまざまな病気を発症するリスクも高くなります。非**アルコール性脂肪性肝疾患**の発見や経過観察に**腹部超音波検査**は有用で、**脂肪肝**の有無や程度、**肝炎**や**肝硬変**の評価や経過観察、**肝がん**になつていないかを見ることができます。

肝炎や**肝硬変**の初期でもほぼ症状はないので病気に気づきにくいです。症状がない方も**MASLD**や**MASH**と診断された方も**腹部超音波検査**や**CT**などの画像検査や血液検査を定期的に受けて**肝臓**の状態を知っておくことが大切です。